



東北教区報 2020年4月号

あけぼの

発行所

日本聖公会 東北教区

仙台市青葉区国分町2-13-15

TEL 022-223-2349

FAX 022-223-2387

URL <http://nssk-tohoku.com/>

主イエスが復活された日、弟子たちは不安な一日を過ごしていました。夕方、彼らは集まっていた家の戸にしっかりと鍵をかけ、息を潜めて閉じこもっていたのです。彼らは、「ダビデの子にホサナ」と歓呼の内にイエス様をお迎えし、その6日後には「十字架にかけよ」と絶叫した群集を恐れていたのです。

その恐れは人間の豹変するありさま、人間のもつ身勝手さに対してであり、人間不信の思いでもありました。しかもそれはユダヤ人に対してだけでなく、イエス様が危機の時、我が身大切のあまり、大事な先生を放り出して蜘蛛の子を散らすように逃げてしまった、自分自身をも含めた弟子たち一人ひとりに対する不信でもありました。その意味で、彼らは家の扉だけでなく、自分自身の心の扉にもしっかりと鍵をかけ、自分の内側に閉じこもってしまったのです。

このように疑心暗鬼に陥っていた弟子たちの真ん中にイエス様がおいでになって、「あなたがたに平和があるように」とおっしゃいます。普通、

私たちはお互いの「不安と疑い」が解消されて後、初めて「主の平和」と言えると思いますが、イエス様は「不安と疑い」の只中に来られ、「シャローム、あなたがたに平和があるように」と宣言してくださるのです。

新型コロナウイルスの脅威にさらされている現代社会において、為政者は結果だけを求めているように見えます。結果さえよければ、その過程で起きる不安や疑いは無視されてしまっているように思えます。その過程で他の人が苦しもうが、不安になるうが、疑心暗鬼になろうが、全

イースターメッセージ
「不安と疑いの只中で」
主教 ヨハネ 吉田 雅人



William Holman Hunt 『世の光』

く問題にされません。しかし人間は結果だけで生きているわけではありません。最初から最後まで全ての過程を生きているのです。いやむしろその過程を大切にしながら、苦しみ悩みながら生きているのではないのでしょうか。とすればいかに結果がよかろうと、その過程で生じた苦しみや悩み、不安や疑いを帳消しにすることはできないのです。

復活のイエス様は、結果に對して「シャローム」を宣言されるのではなく、その過程の只中においてになり、「あなたがたに平和があるように」と祈ってくださいなのです。その過程で生じるありとあらゆる苦しみ、悩み、不安、疑いに對して「シャローム」と言われ、その只中を生きる私たちの人

生を祝福してくださいなのです。その只中を生きる私たちと共にいてください。

確かに私たちの人生は、苦しみ、悩み、不安、疑いで満ちています。しかし主が私たちの真ん中に立たれ、私たちと共に歩まれ、「あなたがたに平和があるように」と言われる時、私たちは喜びに満たされるのです。そしてイエス様が「あなたがたを遣わす」と言われる時、あなたは、今あなたが抱えている様々な苦しみや悩みを背負って生きなさい。不安や疑いを持ったあなたそのままの姿で、わたしはあなたをこの世界に派遣する。なぜならあなたは、今のあなたの現実の姿のまま、わたしの「平和」をも携えているからだ。わたしの「平和」を携えている限り、あなたは恐れることはない。

イエス様は、このように私たちに声を掛けてくださっているに違いありません。

聖書を読もう！
礼拝を楽しもう！！
— 一定年退職にあたり —

主教 ヨハネ 加藤 博道



聖公会という教会、そこに集われる信徒の皆様は、実は大変恵まれています。西欧の教会史2千年の

に我慢がならず、クロムウェルは革命を起こし、国王を処刑し祈禱書を廃止しました(約11年後に回復)。時期と事情は異なりますが克蘭マー自身もオックスフォードで火刑に処せられています。祈禱書は命がけで生み出されてきたのです。もちろん国教会にも大変優れた聖職者も信徒も

さらに積極的に、前向きに検討していただきたい。2004年の告示には次のようにあります。「教会の働きの中心には礼拝があります。そして共に祈ること、聖書を読み続けること、信仰を求めた人を探し出して福音を伝えること、また共に励ましあったり、力づけあうことがあります」。

個人的な話で恐縮ですが、昨年秋から妻が突然聖書を読み始めました。今まで読んでいなかったとは申しませんが、何を思ったのか、改めて「全部読む」と言ってくる日も来る日も読み続け、途中怪我で入院しましたが、その間はなおさら集中出来たようです。

それでは聖書は読まなくてもよい、という結論ではなく、読むとさらに礼拝と祈禱書がよく分かって楽しくなると申し上げたいと思います。16世紀の英国国教会の信徒、

同じことを繰り返すだけで、わたしがそのためのふさわしい貢献をすることが出来なかつたとすれば、申し訳なく思います。しかし申し上げていることは、そんなにお金のかかることではありません。大きな組織がなければ出来ないことでもありません。申し上げていることは教会の原点であり、ほとんどゴールなのだと思えます。聖職者がいなければ聖書は読めない、ではなく少数の信徒の方が集まって聖書を読み、教会のことや自分の思っていることを自由に話し合えるような、そんな教会が素敵なのだと思います。

まず新約聖書を読了し、現在旧約聖書を読み進んでいきます。理由は「祈禱書がよく分からない」ということでした。長年奏楽者をしていながらとお叱りを受けそうですが、やはり自分自身、物足りなく感じる面もあったのでしよう。そして今、「礼拝が今までよりも楽しくなった」と申しています。式文の聖書的な背景が少し響いてくるようになって、ということだと思います。

間接的引用から成り立っていますので、礼拝に出ていけば聖書の言葉、少なくとも聖書的な言葉を聴き続けることになり。それは16世紀の英国国教会改革における大主教トーマス・克蘭マーの意図でもありました。はっきり言えば、国教会の状況の中で、あまり熱心でない信徒でも、また聖職者の説教がそれほど優れていなくても、祈禱書の祈りを聴き続け唱え続けることで、そしてもちろん礼拝の中の聖書朗読を通して、聖書の言葉が知らないうちに身に染みてくるという、国教会だからこその方針でありました。ですから個人的な真剣さを大事にするピューリタンの人たちはそういう聖公会のあり方

振り返れば2003年の私にとつて最初の教区会のご挨拶(告示)ではこう言っています。「教会の礼拝、聖書の学び、さまざまな伝道的・教育的プログラムのあり方について、これまで同様、そして

教区主教として14年間、全体では17年間の交わりとお支えに心から感謝いたします。

洗礼おめでとう

マリア 村上 寛子
(1月29日・盛岡)

クリスティーン 燕 艶

トマス 大槻 悦夫

フランシスカ 川股 ちぐさ
(3月1日・仙台)

初臨餐おめでとう

クリスティーン 燕 艶

トマス 大槻 悦夫

フランシスカ 川股 ちぐさ
(3月1日・仙台)

聖婚おめでとう

藤原 和将

ミカエラ 猿渡 桃子

(2月23日・仙台)

永遠の平安

マリア 村上 寛子

(1月29日・盛岡)

トマス 渡邊 正雄

(2月15日・盛岡)

ナタナエル 竹村 次男

(2月18日・仙台)



東北教区を去るにあたり

司祭 フランシス 中山 茂



もともと
土木工学系
の勉強を岩
手大学でし
ていました

から「人生が二度あれば」(井上陽水)父と仕事が出来ただろうと今も思います。

この度、諸事情で横浜教区へ転籍することとなりました。今までいただいたご厚誼を心より感謝申し上げます。

引越に際し、かつて盛岡でお手伝いいただいたときに含まれていた廃棄すべきものを仕分けしています。

その中に手紙や文書が含まれ、今は亡き方々のことを思い出しています。様々助けられ、ここまで来たんだなとしみじみ思います。

キャンプやお泊り会のこと、大震災で被災し、今は無い新地(磯山)のときわ旅館でお世話になったこと等、映像が走馬灯のように駆け巡ります。「なぜ司祭に」との題でかつて教区報の原稿依頼があり、書けませんでしたので、少し触れます。

なり、もう一つ宣教拠点が必要だということで選ばれたと伺っています。

具体的な始まりは、小学校2年生の頃、住んでいた町営住宅のすぐ傍に長坂聖マリヤ教会が建てられたことでした。赴任した牧師が植松從爾司祭(後の中部教区主教)でした。

庭で遊んでいたとき「日曜学校において」と奥様の喜久江夫人から声を掛けられたのを今でも覚えていています。

子どもにとっては從爾司祭の話よりも喜久江先生のお話がとても面白くて、毎週楽しみにしていました。

末っ子の功氏(黙想と祈りの集いの世話人)が同級生で、それ以来、今に至るまでずっと交友関係が続いています。

ちなみに、そのお兄さんが誠氏(現北海道教区主教・首座主教)でした。

長坂に教会が出来たのは、母体となった清里聖アンデレ教会の信徒が増え、広範囲に

東日本大震災 被災者支援プロジェクト 【2月の活動報告】

定期的なプログラムの広畑お茶会は28日に、水曜喫茶は5日と19日に、名取市閑上から名取の大型ショッピングモールへのお買い物支援も毎週木曜日行われました。

3月11日の大震災9周年記念の日を迎えるため、教区内教会における礼拝日程を調整、また式文を作成し教区のホームページに掲載、さらに管区のホームページにも掲載のお願いをいたしました。

そうした中、新型コロナウイルスによる緊迫した課題となり、関係者と協議の上、3月中旬の定期的な支援プログラムは中止、さらに3月11日の礼拝のあり方についても29日、教区主教とプロジェクト・リーダーの名前によって全教役者、教会に対して基本的な指針の文書を送付いたしました。各開催教会において、十分な配慮と柔軟性をもって対応いただくようにとの要請でした。

常置委員会報告 2/10開催

■教区財務状況報告
教役者給与の昇給により管区からの給与調整金は終了。

■主教諮問事項
管区総会提出議案(主教会)「日本聖公会法規の一部改正する件」について
宣教体制の見直しと教区再編に向けて提出予定の法規改正議案について主教より説明、意見交換。

■協議事項
台風19号被災者支援献金と遺贈金の会計処理について
台風19号被災者支援献金の残金と遺贈献金については、特別会計に「災害支援資金」を設けて管理することを決議。

白河基督聖公会土地売却残金について
残金9,332,557円について、宣教強化資金に繰り入れることを決議。

執行機関諸グループのメンバー・リーダーの変更について
定年退職、転籍に伴う教役者異動により、リーダー、メンバーの変更を決議。



「あのとき」から10回目の桜が咲こうとしているここ東北。未だに心の傷は深く、その痛みは多くの人々に重くのしかかっております。あらためて主の平和を祈らずにはおられません。

さて、私どもの後援会の成り立ちは仙台基督教会信徒であった故大浦敬一氏の深い祈り

働き人が 与えられますように

教役者聖職候補生後援会
委員長 ルカ 小沼 雅義



りと啓発活動があつて、1962年

の教区会で承認された信徒主導の任意団体であります。(後援会規程前文)

その目的は聖職候補生等の育成を後援すること、教役者の待遇の援助をすること、の二本柱からなっております。

この度の教区人事異動に伴い、現任教役者の数は主教様

を除き、一桁8名となり、山形県はとうとう定住司祭がない県となつてしまいました。これまで以上に一人の教役者が、広範囲な複数の教会・施設を司牧管理なされている訳です。

更に、その待遇は他教区と比べ大変厳しい状況に置かれております。にも拘らず教役者の皆様は日々、祈りと尊い働きで教会を支えてくださつておられます。しかし、この状況が続きますと一層負担が増え、健康面を危惧せざるを得ません。

ご存知の通り東北教区ではここしばらく神学生が生まれずべき展望会議や各グループでは、新しい風を吹き込み、様々な計画や取り組みを一生懸命されておられます。

どうぞ、私たちの東北教区に『働き人』が与えられますよう、祈り励まし合ひましよう。聖パウロが言われた「苦難を希望」へと変えていきま

しょう。

この困難の中にある今、私も後援会は皆様方と連携しつつ、財政・環境面を少しでもご援助し、安心して「学びと奉仕」に専念出来ますよう、活動を進めるところです。

発足より60年の長きに亘つて、ご支援出来てきたことは大いなる喜びであり、先達方の尊い働き、何よりも皆様方のご協力の賜物と感謝申し上げます。

昨年は信徒の皆様から100万円余りの尊い献金を寄せて頂き、教区へお届けすることが出来ました。今年も引き続きご協力をお願い申し上げます。献金は毎月一口100円からとなっております。新たに賛同頂けます方も教会を通してご献げ下されば幸いに存じます。

私たち一人ひとりが手を合わせ、手をつなぎ、心を合わせ、支え合ひましよう。あの「ヨナ」をも愛された神さまは、いつも私たちに手を差し伸べて下さっているのです。

『御手の中で すべては 変わる 感謝に』
(聖歌325番)

各教区青年担当者の集い参加報告

仙台基督教会 セントクリストファー 赤坂 聖矢

備会も同日行われまして。それぞれ

2月10～11日に名古屋学生センターにて「各教区青年担当者の集い」が開催されました。前回の集いから今回までの各教区の青年活動の報告の時間を持ちました。定期的な集まりを持つている教区や、教区間合同のプログラムを行っている教区があり、これからの青年活動を考える上でとても刺激となりました。

また近年の異常気象による様々な影響への対応についても意見交換しました。キャンプの際、体調不良者のためエアコン付きのキャンピングを準備している教区もあると聞き、安全対策を考えさせられました。また、台風により急遽キャンプを中止した教区のお話を伺い、一昨年、東北教区でも同様のケースがあつたことを思い出し、今後ますます増えると思われる状況について、情報を共有しました。

今回は今夏フィリピンで行われる予定の「CCEA青年大会(東アジアの聖公会の青年大会)」の、日本参加者準備会も同日行われまして。それぞれが国で抱える問題について青年が発題し共に考えるプログラムがあり、日本は「原発」と「基地問題」について発題する予定です。担当者や青年合同のプログラムとして、それら二点について学ぶ時間が持たれました。基地問題については正義と平和委員会沖縄プロジェクトから小林祐二司祭が、原発問題については私から「原発のない世界を求めめる国際協議会」の参加報告をさせていただきました。原発問題に対し日本聖公会はどういう方向に向かっているのか、協議会までの歩みと協議会中の講演、発題内容、提出された声明を用いて、青年たちと共有しました。残念ながら現在東北教区から参加者を見出せておりませんが、大会に参加する青年たちが原発問題について世界へ発信してくれることは大きな希望になると思っています。学びの多い2日間であり、東北教区の青年活動をより深めていきたいと感じさせられました。



ある患者さんとの思いで 山形聖ペテロ教会

カタリナ 加川 幸子



「おはようございます。カーテンを開けましょう。今日はとても

美しい朝ですよ」「気持ちの良い日、今日の様な日を私の旅立ちの日にしたいね……」「いつも神様が○○さんを守ってくださり、きつと心の思いが伝わっていると思えますよ。私も○○さんが痛みや苦しみが無い様にお祈りしています。少しでも長い時を、息子さんたちと楽しい時間を過ごせるようにともお祈りしています。この間息子さんが近いうちに来ると、約束して帰ったでしょう」「男の子は当てにならないですよ。○日に行くといっておきながら『行けなくなつた。帰れない。』

2、3日してから』としゃべりだしたから、人を当てにしてはだめだ」と、穏やかな表情で話された。体調、痛みの状態等を聞き、状態を観察して様子を見ながらの朝のケア、朝食の準備をしていた時に「そうね」と誰かと話している感じで「どうなさいましたか」の問いには返答がなく、「○○さん」と呼びかけると、手は握り返すが声を発することなく、一点を見つめる表情が険しい。ほんの数秒が長い時間に感じられた。すると急に「これから私は神様と交信しますので、しばらく誰も来ないでください。約束してください。」「どうしましたか。痛みはどうですか」と問うと「誰も来ないで早く出て行って！」と強い口調でいわれました。いつもの○○さんとは違うと思ひ、「いつでも呼んでくださいいね」といい、そっと顔を覗くと、やはり表情は硬く、一点を見つめていたが、ちらりと険しい目でこちらを見る。やはりおかしいと思いつつ、看護室へ急いだ。今日の受け持ち看護師に状況を伝え、少

したら部屋に行ってくれるように伝えた。あの様子は痛みとは違う、心深く、魂が揺さぶられる様な、何とも言えないあの場、誰も来ないでと険しい眼、人が変わった表情、こんなにも人は変貌するものなのだろうか……これは何なのだろうーと思いつつ引き継ぎに入ったところ、急にナースコールが鳴り、「主治医を呼んで！呼吸が止まりそう！」という慌ただしい連絡が入り、急変時の処置準備となりました。

あの数分前の会話、神様との交信、険しい表情、手を強く握り返したあの時。いったい何が起きたのか……思い巡らしつつ、自分の言動をあれこれ思いつつ、心に深く、長い間思いが残りました。○○さんとの一瞬の時を過ごすことができたことを、大切にしていこうと。そして○○さんと天国……どこかでお会いできたなら、あの時のことを聞いてみたいと思うと共に、○○さんが天国で穏やかに過ごされていることを、願わずにはいられません。

礼拝堂探検隊

礼拝堂にあるいろいろなもの、その意味を調べてみました。

(第8回 聖書台・説教壇②)

文語祈
く私たちは御言葉に養われることを意味します。

また説教壇が左側(福音書側)にあるということは、説教とは現在の状況の中で説教者の口を通して語られる御言葉(福音)の解き明かしだということですが、本当にそうやっていけば良いのですが。

から読まれたのでしょうか。これには諸説ありますが、初期の西方教会で、キリストの福音が地中海側(南側、即ち右側)から異民族の住んでいた大陸内部(北側、即ち左側)に宣教されていく有様を現しているそうです。現在ではしばしば福音書は会衆席の真ん中で朗読されます。これは、世界の

さて、これらに共通するところが一つあります。それは聖書も説教も、そのどちらも「聴く」ものであるという点です。誰もが聖書を読めるようになったのはたかだか五百年。それまで聖書は読むものではなく聴くものでした。「聴」という字は、耳を大にして、十方四方に心を配って聴く姿勢だそうです。その意味で聖書



(説教壇/聖書台・福島聖ステパノ教会)

中、福音が宣言されることを意味しています。そのことから考えますと、聖書台から聖書が朗読されるということは、神様の御言葉が世界に向かって宣言されるということであり、それを聞

日課朗読者は聖堂の一番後にいる人にも届くような読み方に心掛け、私達は礼拝の中で御言葉を「聴くこと」に徹しますと、今までとは別の響きで聴けるのではないのでしょうか。(教区主教)



室根聖ナタナエル教会

室根聖ナタナエル教会の北側には、霊峰と称えられる室根山が聳えています。ハンダグライターの聖地ともなり、雄大ですばらしい山です。

しかし地元の人々はしばしば「室根おろし」といわれる冷たく強い風に悩ませられます。昨年教会も看板が根元から倒れるという被害を受けてしまいました。日頃から交流のあるBSAのご協力をいただき、この度看板修理をしつかりと行ない、以前より立派になりました。感謝。

大館聖パウロ教会

教区の婦人会のことを語り合う機会の多い今、改めて諸先輩の記された当教会の歴史を拝読いたしました。

1956年、大館で三度目の大火で教会、牧師館、園舎焼失。1963年1月、新しい聖堂聖別。遡ること百年余、1905年10月大館講義所開

設。1933年10月、大館聖保羅教会聖堂聖別。

この間、国内外の教役者の働き、婦人たちの祈りと捧げ物、地元の方々の熱心、圧倒されました。

聖ペテロ伝道所

今春の教役者の人事異動により、定住者のいない当伝道所に越山健蔵司祭が居住してくださいさることになりました。神さまに感謝いたします。

同じ異動で第2日曜日に礼拝をお務めくださった加藤博道主教が定年退職されます。あの素敵な歌声を聞けなくなるのはとても残念でなりません。

春は出会いと別れの季節、何やら心がザワザワしますが、楽しいことを期待しながら、穏やかに暖かい季節を迎えたいと思います。

仙台聖フランシス教会

一昨年改築した牧師館の庭に、花や野菜を植え始めました。野菜作りの素人である私たちにアドバイスしてくださいるのは、教会の近隣に住むお爺ちゃん先生です。このお爺

ちゃん先生は、教会に近隣のお年寄りを呼んで一緒に昼食を囲む「むつみ会」のメンバーで、時には先生で、時にはお客さんとして教会と関わってくださいっています。これから少しずつでも庭を拓いて、教会も開いていけたらと思います。

新庄聖マルコ教会

大齋節中のこの時期、毎年話す「聖書のお話」。巨大な十字架を背負い、罵声や石を投げられながらゴルゴダの丘へ進むイエスさま。両手足に釘を打たれて磔にされ、槍を突かれ、私たちの身代わりとして処刑されたイエスさま。

子どもにとっては、シヨッキンクな内容だが、いつまでも忘れられない幼き日の話。自身もそうであった。

正座する両膝に手をつき、前屈みになり、顔を歪めながら聞き入る、いつもは落ち着きのない年少児の姿が、今年あった。

磯山聖ヨハネ教会

磯山のクリスマスは、9人の信徒と力強い仲間です。「聖書

朗読とクリスマスキャロルによる「み言葉」と聖餐式」。男声アカペラ、博士の三重唱、オルガンで音楽的？にメリークリスマス。

礼拝が月2回なので、次は新年と特に忙しい季節です。聖堂の生花は松と万両が活けられ、愛餐会は新地のお赤飯(小豆なしの薄紅色)と卵とじて和やかに令和2年スタートです。

4月逝去者記念聖餐式

4月7日(火)午前10時
於 主教座聖堂
司式 吉田 雅人 主教
説教 李 贊熙 司祭

- 司祭 ヨハネ 落合吉之助 1942年4月1日逝去
- 司祭 稲垣陽一郎 1949年4月1日逝去
- 宣教師 Miss Gladys V. Gray 1978年4月2日逝去
- 主教 John McKim 1936年4月4日逝去
- 司祭 田井 正一 1927年4月6日逝去
- 司祭 ヨシユア 大野 敏之 1971年4月8日逝去
- 伝道師 織間小太郎 1934年4月15日逝去

- 宣教師 Miss Georgie Suthon 1941年4月15日逝去
- 司祭 イスラエル・ヤコブ 加藤泰治 1970年4月16日逝去
- 執事 北沢 繁松 1934年4月21日逝去
- 司祭 森 滉 1934年4月22日逝去
- 司祭 早川喜四郎 1943年4月23日逝去
- 伝道師 マリヤ・マタレン 神崎ゆき 2007年4月23日逝去
- 執事 Dorothea V. Carlson 1928年4月27日逝去
- 司祭 小林彦五郎 1944年4月29日逝去
- 司祭 Robert W. Andrews 1962年4月29日逝去
- 伝道師 マリア 鈴木 八重 1991年4月29日逝去
- 宣教師 Mrs. Lora Gladys Clifford 1929年4月30日逝去
- 司祭 John Gage Waller 1943年4月30日逝去

お詫びと訂正

3月号4頁1段目見出し 笹森伸児司祭の教名に誤りがありました。正しくは「アタナシオ」です。お詫びして訂正いたします。